



Slipclean DL

Metalube Group Ltd, Molyslip

バージョン番号: 2.2

安全データシート - JIS Z 7253 : 2019 準拠

発行日: 06/10/2023

印刷日: 06/10/2023

S.GHS.JPN.JA

セクション1 化学品及び会社情報

製品に関する情報

製品名	Slipclean DL
国連輸送名	エアゾール; エアゾール; エアゾール; エアゾール; エアゾール; エアゾール; エアゾール; エアゾール; エアゾール
他の製品特定手段	UFI:M8K1-U0VC-P00C-RUNW

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途及び使用上の制限	製造者の指示に従い使用すること。
--------------	------------------

供給者の詳細

供給者の会社名称	Metalube Group Ltd, Molyslip
住所	Metalube Group Ltd, 4 Huntsman Drive Irlam, Manchester M445EG United Kingdom
電話番号	+44(0) 161 775 7771
FAX番号	+44(0) 161 775 7511
ホームページ	www.molyslip.co.uk
eメール	compliance@molyslip.co.uk

緊急連絡電話番号

会社名	Metalube Group Ltd, Molyslip	CHEMWATCH 緊急時対応 (24/7)
緊急連絡電話番号	+44(0) 161 775 7771 (8am to 4pm)	+81 50-3204-4966
その他の緊急連絡電話番号	データ無し	+61 3 9573 3188

電話がつながった時のメッセージがご希望の言語でない場合は、06をダイヤルしてください

セクション2 危険有害性の要約

化学物質又は混合物の分類

分類 [1]	エアゾール 区分1, 皮膚腐食性／刺激性 区分2, 皮膚感作性 区分1, 水生環境有害性 短期(急性) 区分1, 水生環境有害性 長期(慢性) 区分1
凡例:	1. Chemwatchによる分類: 2. 日本 NITE GHS 分類データベースによる分類

GHSラベル要素

絵表示:	
注意喚起語	危険

危険有害性情報

H222+H229	極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール; 高圧容器: 熱すると破裂のおそれ
H315	皮膚刺激
H317	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H410	長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き: 安全対策

P210	熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざげること。禁煙。
P211	裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。

P251	使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
P280	保護手袋、保護衣を着用すること。
P261	ガスの吸入を避けること。
P273	環境への放出を避けること。
P264	取扱い後は製品が付着した体の部位をよく洗うこと。
P272	汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

注意書き: 応急措置

P302+P352	皮膚に付着した場合: 多量の水と石けん(鹹)で洗うこと。
P333+P313	皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察／手当を受けること。
P362+P364	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
P391	漏出物を回収すること。

注意書き: 保管(貯蔵)

P410+P412	日光から遮断し、50 °C以上の温度にばく露しないこと。
-----------	------------------------------

注意書き: 廃棄

P501	内容物／容器は、自治体の規制に従い、認可を受けた有害廃棄物または特別廃棄物の処理施設に廃棄すること。
------	--

セクション3 組成および成分情報**物質**

混合物の組成については、以下のセクションを参照してください

混合物

CAS番号	%[重 量]	名称	官報公示整理番号		ナノフォーム粒子特 性
			化審法	安衛法	
68476-85-7.	30-70	石油留分	9-1697	公表	データ無し
64742-48-9*	10-30	Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy	8-425, 9-2468	公表	データ無し
67-64-1*	5-10	Acetone	2-542	公表	データ無し
5989-27-5*	30-70	(R)-p-mentha-1,8-diene.	8-498, 3-2245, 7-988, 4-593, 8-497	3-(4)-187 (3-(4)-222)(3-(4)-202)	データ無し
凡例: [e] 内分泌かく乱作用をもつと認められている物質					

セクション4 応急措置**必要な応急措置の説明**

眼に入った場合	<ul style="list-style-type: none"> 眼に入った場合、直ちにまぶたを指でよく開いて流水で眼を洗浄すること。 医師からの停止の指示があるまで、または少なくとも15分間は水洗いを継続すること。 洗眼は、眼球、瞼の隅々まで水がよく行き渡るように行うこと。 速やかに医師の手当を受けること。痛みが続いたり繰り返す場合は、医師の手当を受けること。 目に損傷がある場合、コンタクトレンズを取り外しは、専門家に任せること。
皮膚に付着した場合	<p>凍傷の場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> 影響を受けた直後から10~15分間患部を冷水に浸す。可能であれば患部全体を水に浸し、擦らないこと。 熱湯または放射熱を適用しないこと。 清潔で乾燥した包帯をする。 病院または医師の元へ搬送する。 <p>固体やエゾールミストが皮膚に付着した場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> 流水で皮膚および毛髪を洗浄すること。必要に応じて石鹼を使用すること。 産業用皮膚洗浄クリームで、付着した固体を取り除くこと。 溶剤を使用しないこと。 炎症がある場合には、医師の手当を受けること。
吸入した場合	<p>エゾール剤、煙または燃焼生成物を吸入した場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> 新鮮な空気のある場所に移動させる。 患者を横たわせ、保温して安静を保つ。 入れ歯のような人工器官は気道を塞ぐ恐れがあるので、可能であれば応急処置を始める前に取り外すこと。 呼吸が浅い場合や停止している場合には、気道を確保し蘇生措置を行う。ディマンドバルブを内蔵する蘇生器、バッグバルブマスク装置またはポケットマスクを訓練通り使用することが望ましい。必要であれば心肺蘇生を行う。 病院または医者のもとへ搬送する。
飲み込んだ場合	通常の進入経路とは考えられていない。

医師に対する特別な注意事項

対症療法を行うこと。

セクション5 火災時の措置

消火剤

小規模火災:

- ▶ 水スプレー、乾燥化学粉末または二酸化炭素

大規模火災:

- ▶ 水スプレーまたは霧

特有の危険有害性

火災の際に避けるべき条件	発火する危険性があるため、硝酸塩、酸化性酸、塩素系漂白剤、プール用塩素などの酸化剤による汚染を避けること。
--------------	---

消火活動に関する情報

特有の消火方法	ガスシリンダーに関する火災の場合: ▶ ガスの流出を止めるため、訓練された作業員に限り、ガス漏れが生じている容器に蓋を被せ酸素濃度を低下させ大気を不活性化させてもよいとする。 ▶ 逆火を防ぐために、可能な場合、ガスの流出を完全に止める前に、ガスの流速を下げ不活性ガスを注入すること。 ▶ 爆発を伴う再点火が起こる危険性があるため、 ガス元が閉じられるまでは、消火活動を行わないこと。 ▶ 鎮火後にガスの流出が継続する場合は、爆発性ガスの蓄積を防ぐために、換気量を増やすこと。 ▶ 容器のバルブを閉める際は、火花を発生させない道具を使用すること。 ▶ 火災が周辺の容器にまで及んでいる場合は、液体の沸騰蒸発および膨張を伴う爆発(BLEVE)に注意を払うこと。 ▶ 遠隔モニターを用いて2500 L/min(500gpm)の速度で容器の液体の高さのところに直接放水すること。 ▶ 消防に通報し、事故の場所と危険有害性に関する情報を伝えること。 ▶ 激しくまたは爆発的に反応することがある。 ▶ 呼吸装置および保護手袋を着用すること。 ▶ あらゆる手段を用いて、排水路または水路への漏出物の流入を防ぐこと。 ▶ 蒸気による火災の危険が排除されるまで、電気機器のスイッチは切っておくこと(安全性が確保できる場合のみ)。 ▶ 水の微細噴霧を利用し、鎮火および火災現場周辺の冷却に努めること。 ▶ 高温になると疑われる容器に接近してはならない。 ▶ 火災にばく露された容器は、安全が確保される場所から水噴霧すること。 ▶ 火の通り道とならない場所に容器を移動すること(安全性が確保できる場合のみ)。 ▶ 使用後、機器を完全に除染すること。
	一般事項
	▶ 消防隊に警告して、彼らに危険の位置と性質を伝える。 ▶ 激しくまたは爆発的に反応するかもしれない。 ▶ 呼吸装置と防護手袋を着用する。 ▶ 避難を考慮する。 ▶ 適切な遮蔽のある安全距離から消火する。 ▶ 安全な場合は、蒸気火災の危険が排除されるまで、電気機器のスイッチを切る。 ▶ 火災をコントロールし、隣接した地域を冷却するために、送られた水を微細噴霧として利用する。 ▶ 熱いと思われるシリンダーに近づかない。 ▶ 火災に暴露したシリンダーを保護された場所から水スプレーで冷却する。 ▶ 安全にできるなら、火災の経路から容器を取り除く。
	消火手順:
	▶ 引火性ガスの火災を消す唯一の安全な方法はガスの流れを止めることである。 ▶ 流れを止めることができない場合は、適切な距離から水でシリンダーおよび周囲の事物を冷やす間に、シリンダーの全内容物を燃焼させる。 ▶ ガスの流れを止めずに火災を消すことは、空気との発火性または爆発性混合物の生成を許すかもしれない。 ▶ これらの混合物は点火源に伝播するかもしれない。
	特別危険
	▶ 過大圧力は、火災に暴露したガスシリンダーの中で発展するかもしれない; これは爆発に帰着するかもしれない。 ▶ 過圧防止安全装置を備えたシリンダーは、火災の結果それらの内容を放出するかもしれない。 ▶ また、放出ガスは、消防士にとって危険の一層の源を構成するかもしれない。 ▶ 圧力除去バルブのないシリンダーは、制御放出に対する準備をしておらず、したがって、もし火災に暴露されればより爆発しやすい。
	消火必要条件:
	▶ 管轄の消防安全性専門家は、各出来事のために接近、進入およびフラッシュオーバー防護および特別の防護服の必要性を決定するべきである。任意の手段により流出物が排水管または水路に入るのを防ぐ。
	火災及び爆発の危険性
	▶ 液体および蒸気は高い引火性を有する。 ▶ 熱または炎にばく露された場合、非常に高い火災危険性を有する。 ▶ 蒸気は、空気と混合し爆発性混合物を生成する。 ▶ 蒸気は、炎または火花にばく露された場合、非常に高い爆発危険性を有する。 ▶ 蒸気は相当な距離を移動し発火源に到達することがある。 ▶ 加熱により、容器の激しい破裂を伴う膨張や分解が生じることがある。 ▶ エアゾール缶は、裸火にばく露されると爆発することがある。 ▶ 破裂した容器は、燃焼物を噴出し飛散せざることがある。 ▶ 危険要因は圧力だけではない。 ▶ 刺激性の有毒または腐食性ガスを放出することがある。 ▶ 燃焼時に分解し、一酸化炭素(CO)の毒性ガスを発生することがある。
	燃焼生成物: 一酸化炭素 (CO) 二酸化炭素 (CO2) 有機物の燃焼特有の、その他の熱分解生成物 低沸点物質を含んでいるため、火災の際、圧力上昇により密閉容器が破裂することがある。

セクション6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

セクション 8 参照

環境に対する注意事項

セクション 12 参照

封じ込め及び浄化の方法及び機材

小規模漏出の場合	<ul style="list-style-type: none">▶ 直ちに全ての漏出物を除去すること。▶ 蒸気の吸入、皮膚および目との接触を避けること。▶ 保護衣、不浸透性の手袋および安全メガネを着用すること。▶ 全ての発火源を除去し、換気量を増やすこと。▶ 拭き取ること。▶ 破損した缶は、圧力が消散するまで発火源から隔離し屋外の容器に保管しておくこと(安全性が確保される場合のみ)。▶ 破損していない缶は、回収し安全に保管すること。
大規模漏出の場合	<ul style="list-style-type: none">▶ エリアからすべての無防備の人員を退去させ、風上へ移動する。▶ 緊急当局に警告して、彼らに危険の位置と性質を伝える。▶ 激しくまたは爆発的に反応するかもしれない。▶ 呼吸装置を備えた全身服を着用する。▶ 利用可能な任意の手段により、流出物が排水管および水路に入るのを防ぐ。▶ 避難を考慮する。▶ 可能なすべての点火源を閉じて、換気を増やす。▶ エリア内での喫煙または裸火は禁止。▶ 激しい反応を防ぐために極端な注意をする。▶ そうするのが安全な場合にのみ漏れを止める。▶ 蒸気を拡散するために水スプレーまたは霧を使用してもよい。▶ ガスが集まっているかもしれない密閉空間に立ち入らない。▶ ガスが拡散するまで、エリアを空にしておく。▶ 可能な場合、漏えいしているシリンダを安全な場所に移動すること。▶ 通器管を設置すること。安全性が確保できる環境でバルブを開け、容器内圧力を抜くこと。▶ 放出ガスは通器管で燃焼させること。▶ バルブに過剰な圧力をかけないこと。破損しているバルブの使用を試みてはならない。▶ 現場から人員を退去させ、風上へ移動せること。▶ 消防に通報し、事故の場所と危険有害性に関する情報を伝えること。▶ 激しくまたは爆発的に反応することがある。▶ 呼吸装置および保護手袋を着用すること。▶ あらゆる手段を用いて、排水路または水路への漏出物の流入を防ぐこと。▶ 禁煙。裸火、熱源または発火源となるものの使用禁止。▶ 換気量を増やすこと。▶ 安全に対処できる場合、漏えいを阻止すること。▶ 蒸気を拡散／吸収するために、水スプレーまたは霧水を使用してもよい。▶ 砂、土、不活性材料またはバーミキュライトを用いて流出物を吸収すること。▶ 破損した缶は、圧力が消散するまで発火源から隔離し屋外の容器に保管しておくこと(安全性が確保される場合のみ)。▶ 破損していない缶は、回収し安全に保管すること。▶ 残留物を回収し、廃棄用の表示がなされたドラム缶に入れ密封すること。

個人用保護具に関する情報については、SDSのセクション8をご参照ください。

セクション7 取扱い及び保管上の注意

安全な取扱のための予防措置

安全取扱注意事項	<p>ラドンおよびその放射性崩壊生成物は、吸い込んだときあるいは飲み込んだとき有害である。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 吸入を含む、人体へのあらゆるばく露を避けること。▶ ばく露の可能性がある場合は、保護衣を着用すること。▶ 換気の良い場所で使用すること。▶ 塗地および排水だめでの濃縮を避けること。▶ 閉所に入る際は、必ず事前に大気検査を行うこと。▶ 喫煙、裸火、熱源または発火源となるものを避けること。▶ 混触危険物質との接触を避けること。▶ この製品を使用するときには、飲食又は喫煙をしないこと。▶ エアゾール缶を焼却したり穴を開けたりしないこと。▶ 人、露出した食物、または食器類に対して直接噴霧しないこと。▶ 容器の物理的破損を避けること。▶ 取扱い後は、石鹼と水を用いて必ず手を洗うこと。▶ 使用した作業着は、他のものと分けて洗濯すること。▶ 職業労働規範に従うこと。▶ 保存および取り扱いに関する製造者の指示に従うこと。▶ 作業環境の安全性を維持するため、空気中の濃度をばく露限度以下に保ち、作業環境を定期的にモニタリングすること。
他の情報	<ul style="list-style-type: none">▶ 缶の腐食防止のため、湿気厳禁。腐食により容器に穴が開き、内圧により缶の内容物が噴出することがある。▶ 元の容器のまま、認定された防火性能を有する場所に保管すること。▶ 凹状の場所、地下室または蒸気が溜まりやすい場所に保管してはならない。▶ 禁煙。裸火、熱源または発火源となるものの使用禁止。▶ 容器を完全に密封して保管すること。内容物は圧力が掛かった状態にある。▶ 混触危険物質から隔離して保管すること。▶ 換気の良い冷乾所に保管すること。▶ 40°C 以下で保管すること。▶ 直立に保管すること。▶ 容器の物理的損傷を避けること。▶ 漏れおよび流出を定期的に確認すること。▶ 保存および取り扱いに関する製造者の指示に従うこと。

混触危険性を含む、安全な保管条件

適切な保管条件	<ul style="list-style-type: none"> ▶ エアゾール容器。 ▶ 容器に明確なラベルが貼り付けられているか確認すること。
避けるべき保管条件	<p>低分子量アルカンは、気体または液体中に存在する化学化合物の一種です。これらのアルカンは以下のとおりです:</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 酸化力の強い酸化剤、塩素、二酸化塩素、およびジオキシケニルテトラフルオロホウ酸塩と酸素および熱が存在する場合に危険な反応を引き起こす可能性があります。 ▶ ハロゲンとは互換性がありません。 ▶ 低い導電率により静電気を生成し、静電気の蓄積を引き起こす可能性があります。 ▶ 火炎や引火源から遠ざける必要があります。 <p>低分子量アルカンは、高温で活性化された炭素上の塩素またはエタノールと組み合わさると爆発を引き起こすことがあります。爆発のリスクは、アルカンに二酸化炭素を添加することで減らすことができます。液体塩素がエタンに特定の温度と圧力で注入されると、エチレンも存在する場合に反応が非常に激しくなります。メタンやエタンなどのアルカンの混合物は、極低温(-196°C)で調製され、温度を-78°Cに上げると爆発しました。さらに、n-ブタンと酸素の混合物にニッケルカルボニルを添加すると、特定の温度で爆発を引き起こすことがあります。</p> <p>アルカンは、ニッケル触媒の存在下で水蒸気と反応して水素を生成します。</p> <p>プロパン:</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 強力な酸化剤、過酸化バリウム、二酸化塩素、二酸化ジクロリン、フッ素などと激しく反応します。 ▶ 一部のプラスチック、ゴム、コーティングを溶解します。 ▶ 気化物を引火させる可能性のある静電気を帯びることがあります。 <p>酸化剤との反応を避けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 圧縮ガスは、ガスが他の物質と反応して生成するエネルギー量をはるかに上回る運動エネルギーを有していることがある。

セクション8 ばく露防止及び保護措置

管理パラメーター

許容濃度(OEL)

成分に関する情報

出典	成分	物質名	TWA	STEL	ピーク	注記
日本産業衛生学会 許容濃度	Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy	鉱油ミスト	3 mg/m3	データ無し	データ無し	発がん性: 1
作業環境評価基準 管理濃度	Acetone	アセトン	五〇〇 ppm	データ無し	データ無し	データ無し
日本産業衛生学会 許容濃度	Acetone	アセトン	200 ppm / 475 mg/m3	データ無し	データ無し	データ無し

緊急ばく露限度

成分	TEEL-1	TEEL-2	TEEL-3
石油留分	65,000 ppm	2.30E+05 ppm	4.00E+05 ppm
Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy	350 mg/m3	1,800 mg/m3	40,000 mg/m3
Acetone	データ無し	データ無し	データ無し
(R)-p-menta-1,8-diene.	15 ppm	67 ppm	170 ppm

成分	オリジナルIDLH	改訂IDLH
石油留分	2,000 ppm	データ無し
Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy	2,500 mg/m3	データ無し
Acetone	2,500 ppm	データ無し
(R)-p-menta-1,8-diene.	データ無し	データ無し

職業暴露バンドティング

成分	職業暴露バンド評価	職業暴露帯域制限
(R)-p-menta-1,8-diene.	E	≤ 0.1 ppm
注記:	職業暴露バンドディングは、化学物質の効力および曝露に関連する有害な健康上の結果に基づいて、特定のカテゴリまたはバンドに化学物質を割り当てるプロセスです。このプロセスの出力は、労働者の健康を守ることが期待される露光濃度の範囲に対応する職業暴露バンド(OEB)、です。	

ばく露管理

設備対策	工学的管理(設備対策)は、危険有害性を排除するため、または作業員を危険有害性から防御するために使用される手法である。適切に設計された工学的管理(設備対策)により、通常、作業者が関与することなく、作業者を効果的に保護することができる。 工学的管理(設備対策)の基本: 工程管理 - 作業または作業工程に変更を加え危険性を低減する。 放出源の密閉および／または隔離 - 作業員を物理的危険有害性から隔離する。換気 - 効果的に作業環境の空気を入れ替える。適切に設定されている場合、換気により空気中の汚染物質を排除または希釈することができる。換気システムは、特定の工程および使用する化学物質または汚染物質に合わせて設計する必要がある。 雇用主は、作業員の過剰ばく露を避けるために複数の制御手法を用いる必要がある。
	通常の作業条件下では、全体排気で十分である。過剰ばく露のリスクがある場合には、JIS認可の呼吸器用保護具を着用すること。安全性を確保するために、保護具は正しく装着することが重要である。倉庫あるいは閉鎖的な保管場所では、十分な換気を行うこと。汚染物質を効果的に除去するためには、新鮮な循環空気の「制御風速」は、作業場で発生する汚染物質を含む空気の「脱出速度」により異なる。

汚染物質の種類:	気流速度:
エアゾール(発生源からの緩やかな放出)	0.5-1 m/秒
直接噴霧、小型ブースでのスプレー塗装、ガス放出(気流が速い場所への放出)	1-2.5 m/秒 (200-500 f/分)

各範囲における最適値の決定要素:

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>下限値</th><th>上限値</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1: 室内空気流が最少または捕捉しやすい</td><td>1: 室内空気流が乱れている</td></tr> <tr> <td>2: 汚染物質の毒性が低いまたは抑制的効果のみを有する</td><td>2: 汚染物質の毒性が高い</td></tr> <tr> <td>3: 発生が断続的で少量</td><td>3: 発生量が多く、使用頻度が高い</td></tr> <tr> <td>4: 大型排気フードまたは空気流量が多い</td><td>4: 小型排気フードまたは局所制御のみ</td></tr> </tbody> </table> <p>理論的には、単一の吸入パイプの開口部から遠くなるにつれ、気流速度は急速に落ちる。一般的に、速度は吸入口からの距離の二乗に比例して減少する（単純なプロセスの場合）。したがって、吸入口における気流速度は、汚染源からの距離を考慮して調節すべきである。例えば、吸入口から2m離れたタンクで発生した溶剤を吸引するには、吸入ファンの気流速度は、最低1~2m/秒(200~400ft/分)であるべきである。吸入装置の機能に欠陥を生じるような機械的因素を考慮すると、吸入システムを導入もしくは使用する際には、理論上の気流速度に10以上の係数をかけることが不可欠である。</p>	下限値	上限値	1: 室内空気流が最少または捕捉しやすい	1: 室内空気流が乱れている	2: 汚染物質の毒性が低いまたは抑制的効果のみを有する	2: 汚染物質の毒性が高い	3: 発生が断続的で少量	3: 発生量が多く、使用頻度が高い	4: 大型排気フードまたは空気流量が多い	4: 小型排気フードまたは局所制御のみ
下限値	上限値										
1: 室内空気流が最少または捕捉しやすい	1: 室内空気流が乱れている										
2: 汚染物質の毒性が低いまたは抑制的効果のみを有する	2: 汚染物質の毒性が高い										
3: 発生が断続的で少量	3: 発生量が多く、使用頻度が高い										
4: 大型排気フードまたは空気流量が多い	4: 小型排気フードまたは局所制御のみ										
保護具											
眼/顔面の保護	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 保護メガネ。 ▶ サイドシールド付きの保護メガネ。 ▶ ケミカルゴーグル。[AS/NZS 1337.1, EN166 または各國の同等物] ▶ コンタクトレンズの使用は、特殊な危険有害性を引き起こすことがある。ソフトコンタクトレンズは、刺激物を吸收・濃縮することがある。レンズの装用および使用制限を明記した方針文書を作業の種類または場所ごとに作成しておくこと。当該文書には、レンズによる使用化学物質群の吸収および吸着に関する評価結果、および障害例の記録等を掲載すること。医療関係者や救急隊員はレンズの取り外しについての訓練を受け、同時に適切な器具を速やかに使用できるよう準備しておくべきである。化学物質へのばく露時には、直ちに洗眼し、速やかにレンズを取り外すこと。眼の発赤または刺激の初期兆候が見られる場合には、レンズを取り外すこと。レンズの取り外しは、清潔な環境において、手をよく洗ってから行なうべきである。[CDC NIOSH Current Intelligence Bulletin 59] ▶ ケミカルゴーグル。[AS/NZS 1337.1, EN166 またはその他の国家規格] ▶ 保護面は、補助的に必要とされるはあるものの、眼を保護する上での主要な保護具ではない。 ▶ コンタクトレンズの使用は、特殊な危険有害性を引き起こすことがある。ソフトコンタクトレンズは、刺激物を吸收・濃縮することがある。レンズの装用および使用制限を明記した方針文書を作業の種類または場所ごとに作成しておくこと。当該文書には、レンズによる使用化学物質群の吸収および吸着に関する評価結果、および障害例の記録等を掲載すること。医療関係者や救急隊員はレンズの取り外しについての訓練を受け、同時に適切な器具を速やかに使用できるよう準備しておくべきである。化学物質へのばく露時には、直ちに洗眼し、速やかにレンズを取り外すこと。眼の発赤または刺激の初期兆候が見られる場合には、レンズを取り外すこと。レンズの取り外しは、清潔な環境において、手をよく洗ってから行なうべきである。[CDC NIOSH Current Intelligence Bulletin 59]。 ▶ よく締まる気密性ゴーグル。 <p>軽度のはく露(少量を扱う場合など)に備え特別な保護具を着用する必要はない。</p> <p>中程度あるいは重度のはく露の可能性がある場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ サイドシールド付きの保護メガネ ▶ 注記:コンタクトレンズの使用は、特殊な危険有害性を引き起こすことがある。ソフトコンタクトレンズは、刺激物を吸收することがあり、どのコンタクトレンズも物質を濃縮させる。 										
皮膚の保護	以下の手の保護具を参照してください。										
手/足の保護	<p>軽量ゴム手袋などの一般的な保護手袋を着用すること。</p> <p>注記:</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 人によっては何らかの皮膚刺激を感じることがある。手袋および他の保護具を脱ぐ際には、あらゆる皮膚接触を避けるよう細心の注意を払うこと。 ▶ 靴・ベルト・時計バンドなどの革製品に汚染物が付着した際は、脱ぎ捨て(または取り外し)廃棄すること。 ▶ 軽度のはく露(少量を扱う場合など)に備え特別な保護具を着用する必要はない。 ▶ それ以外の場合: <ul style="list-style-type: none"> ▶ 中程度のはく露の可能性がある場合: ▶ 軽量ゴム手袋などの一般的な保護手袋を着用すること。 ▶ 重度のはく露の可能性がある場合: <ul style="list-style-type: none"> ▶ ポリ塩化ビニル製などの化学用保護手袋および安全靴を着用すること。 <p>絶縁手袋。</p>										
身体の保護	以下の他の保護具を参照してください。										
他の保護	<p>緊急用シャワーに直ぐにアクセスできるようにしておくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 防護用密閉服(つなぎ型) ▶ 洗眼用設備 ▶ 保護クリーム ▶ 皮膚洗浄クリーム 										

呼吸用保護具

AX タイプフィルタ (十分な容量を有するもの)

緊急事態時に現場に進入する場合、または酸素濃度や蒸気濃度が不明なエリアでは、カートリッジ式呼吸器用保護具を使用しないこと。カートリッジ式呼吸器用保護具を着用しているにも関わらず、なんらかの臭いを察知した場合は、直ちにその汚染区域から退去すること。臭いを察知した場合、その呼吸器用保護具が適切に機能していない、蒸気濃度が非常に高い、または、保護具が着用者に合っていないことが考えられる。このようにカートリッジ式呼吸用保護具の使用には制限があるため、適切な状況においてのみ使用が認められている。

▶ 通常は適用されない。

セクション9 物理的及び化学的性質

物理的および化学的性質に関する基本情報

外観	無色		
物理状態	液化ガス	相対密度 (水 = 1)	データ無し
臭い	データ無し	n-オクタノール/水分配係数	データ無し

嗅覚閾値	データ無し	自然発火点 (°C)	データ無し
pH	データ無し	分解温度 (°C)	データ無し
融点/凝固点 (°C)	データ無し	動粘性率 (cSt)	データ無し
沸点/初留点/沸点範囲 (°C)	データ無し	モル質量 (g/mol)	データ無し
引火点 (°C)	<23	味	データ無し
蒸発速度	データ無し	爆発性	データ無し
可燃性	引火性がきわめて高い。	酸化特性	データ無し
爆発上限界 (%)	データ無し	表面張力 (dyn/cm or mN/m)	データ無し
爆発下限界 (%)	データ無し	揮発性成分 (%vol)	データ無し
蒸気圧 (kPa)	データ無し	ガスグループ	データ無し
溶解度	不溶	pH (溶液) (1%)	データ無し
相対ガス密度 (空気 = 1)	データ無し	揮発性有機化合物 g/L	データ無し
ナノフォーム溶解度	データ無し	ナノフォーム粒子特性	データ無し
粒子サイズ	データ無し		

セクション10 安定性及び反応性

反応性	セクション 7 参照
化学的安定性	▶ 高温である。 ▶ 裸火が存在する。 ▶ 製品は安定していると考えられる。 ▶ 危険な重合反応は起こらないと考えられる。
危険有害反応可能性	セクション 7 参照
避けるべき条件	セクション 7 参照
混触危険物質	セクション 7 参照
危険有害な分解生成物	セクション 5 参照

セクション11 有害性情報

毒物学的影响に関する情報

吸入した場合	<p>本物質は、(動物モデルを用いたEC指令の分類に基づく) 有害な健康影響を及ぼす物質または気道刺激性物質とは考えられていない。それでもなお、作業環境においては、適正衛生規範 (GHP) に従いばく露を最小限に抑え、適切な管理策を講じるべきである。</p> <p>高濃度の混合炭化水素を吸入すると、吐き気、嘔吐、立ちくらみを伴う昏睡を引き起こすことがある。低分子量(C2~C12)の混合炭化水素は、粘膜を刺激することがあり、協調運動障害、めまい感、吐き気、回転性めまい、錯乱、頭痛、食欲不振、眠気、振戦および知覚麻痺を引き起こすことがある。ばく露量が多いと、重度の中中枢神経系抑制、深刻な昏睡および死を招くことがある。脳刺激および/または酸素欠乏により痙攣を起こすことがある。ばく露から数カ月後に、てんかん性発作および脳出血が起こるなど永久的な障害が残る場合もある。呼吸器系への影響には、浮腫や肺出血を伴う肺炎症が含まれる。分子量が軽いものは、主に腎臓障害および神経障害をもたらし、分子量が多いパラフィンやオレフィンは、特に呼吸器系を刺激する。高濃度のアルケンは、肺浮腫を引き起こす。パラフィン液は、知覚麻痺および神経抑制作用を発揮することがあり、衰弱、めまい、徐呼吸・浅呼吸、意識不明、痙攣および死を招くことがある。C5~7パラフィンは、多発神経障害を引き起こすことがある。芳香族炭化水素は、脂質豊富な組織(脳、脊髄、末梢神経など)に蓄積し、吐き気、衰弱、疲労、回転性めまいといった非特異的症状を伴う機能障害をもたらすことがある。過度なばく露は、酩酊または意識不明を引き起こすことがある。石油炭化水素の多くは、心臓を刺激し、心室細動を引き起こし死を招くことがある。</p> <p>蒸気の吸入は不快感の原因となる。</p> <p>警告: 内容物の濃縮／吸入による意図的な不正使用は致命的な事故を引き起こすことがある。</p> <p>揮発性が高く、閉所または無換気空間で使用すると、大気中濃度が高くなることがある。蒸気は空気より重いため、呼吸ゾーン内では空気を押しのけ単純窒息性ガスとして作用することがある。過剰ばく露による警告がほぼ無いままである。</p> <p>高濃度ガス／蒸気の吸入により、咳や吐き気を伴う肺炎症、頭痛やめまいを伴う神経衰弱、反射神経の鈍化、倦怠感および協調運動失調を引き起こす。</p>
飲み込んだ場合	<p>物理的形状から判断し、有害性を有するとは通常考えられていない。</p> <p>商業あるいは工業環境においては、まれな侵入経路であると考えられる。</p>
皮膚に付着した場合	<p>皮膚に接触した場合、皮膚炎を引き起こす可能性がある。</p> <p>皮膚疾患がある場合、症状を悪化させることがある。</p> <p>皮膚接触により、(EC指令の分類に基づく) 有害な健康影響を及ぼす物質とは考えられていない; 外傷、病変部または擦り傷を通じて体内に侵入すると、健康被害を引き起こすことがある。</p> <p>噴霧は、不快感の原因となることがある。</p> <p>開放創、擦り傷または炎症がある場合は、皮膚への接触を避けること。</p> <p>切創、擦り傷または病変部などを通じて血流に侵入すると、悪影響を及ぼす全身性疾患を引き起こすことがある。使用前に皮膚を検査し、あらゆる外傷を適切に保護しておくこと。</p> <p>液体を気化すると急激に冷え、接触により凍傷を引き起こすことがある。</p>

眼に入った場合	刺激性物質とは考えられていないが(EC指令の分類と同様)、眼に入ると流涙または結膜発赤(風焼けの症状と同様)を特徴とする一過性の不快感を引き起こすことがある。 ガスの揮発性が非常に高いため危険性を有するとは考えられていない。	
慢性毒性	人によっては、皮膚に付着することにより、感作性反応を生じる可能性が高くなると考えられる。 混合炭化水素に対する継続的あるいは長期ばく露により、めまい、衰弱および視覚障害を伴う知覚まひ、体重減少や脱力感、肝臓や腎臓の機能低下を引き起こすことがある。皮膚へのばく露は、皮膚の乾燥、ひび割れおよび発赤を引き起こすことがある。低分子量炭化水素に対する慢性ばく露により、肝臓や腎臓障害とともに、神経障害、抹消神経障害、骨髄機能不全、精神障害を引き起こす可能性がある。 作業場におけるガスへのばく露は、主に吸入によるものである。	
Slipclean DL	毒性 データ無し	刺激性 データ無し
石油留分	毒性 吸入(ラット) LC50: 658 mg/l4h ^[2]	刺激性 データ無し
Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy	毒性 吸入(ラット) LC50: >4.42 mg/L4h ^[1] 経口(ラット) LD50: >4500 mg/kg ^[1] 経皮(ウサギ)LD50: >1900 mg/kg ^[1]	刺激性 皮膚:有害作用が認められる(刺激性) ^[1] 眼: 有害作用は認められない(刺激性なし) ^[1]
Acetone	毒性 吸入(マウス) LC50: 44 mg/L4h ^[2] 経口(ラット) LD50: 5800 mg/kg ^[2] 経皮(ウサギ)LD50: 20000 mg/kg ^[2]	刺激性 皮膚:有害作用は認められない(刺激性なし) ^[1] 眼:有害作用が認められる(刺激性) ^[1]
(R)-p-mentha-1,8-diene.	毒性 経口(ラット) LD50: >2000 mg/kg ^[1] 経皮(ウサギ)LD50: >5000 mg/kg ^[2]	刺激性 皮膚:有害作用は認められない(刺激性なし) ^[1] 眼: 有害作用は認められない(刺激性なし) ^[1]
凡例:	1. 欧州ECHA登録物質 - 急性毒性 - から得られた値。2. *の値は製造者のSDSから得られた値。特に注記のないデータはRTECSから抽出した値。	

Slipclean DL	以下の情報は、グループとしての接触アレルゲンに関するものであり、この製品に固有のものではない場合がある。 アレルギー性物質に接触することで、接触湿疹(まれに、じんましん、またはクインケ浮腫)が即座に発症する。接触湿疹の発症は、遅延型の細胞媒介(Tリンパ球)免疫反応を伴う。接触じんましんなどの他のアレルギー性皮膚反応は、抗体媒介免疫反応を伴う。接触性アレルゲンの深刻さは、物質が潜在的に有する感作性によって特定されるだけでなく、接触した部位および接觸頻度なども重要な要因となる。広く使用されている弱感作性物質は、少數のみばく露する強感作性物質よりも、重大なアレルギー性物質であると考えられている。臨床的に判断し、被験者の1%以上にアレルギー性反応が診られた場合、その物質は要注意物質とみなされる。		
石油留分	文献調査では、有意な急性毒性データは確認されていない。		
Acetone	アセトンについて: アセトンの急性毒性は低いです。アセトンは皮膚刺激性または感作性ではありませんが、皮脂を取り除き、目を刺激します。動物実験では、アセトンは貧血を引き起こす可能性があります。人体への研究では、2375 mg/m3のアセトンの露出は個人の感情調整、行動、学習能力に否定的な影響を与えないことが示されています。		
急性毒性	✗	発がん性	✗
皮膚腐食性／刺激性	✓	生殖毒性	✗
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	✗	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	✗
呼吸器感作性又は皮膚感作性	✓	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	✗
生殖細胞変異原性	✗	誤えん有害性	✗

凡例: ✗ - データ利用不可または、区分に該当しない
✓ - 分類済み

内分泌かく乱作用

内分泌かく乱作用を示す証拠は、最新の文献では見つかっていない。

セクション12 環境影響情報

生態毒性

Slipclean DL	エンドボイント	試験期間(時間)	種	値	出典
	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し

石油留分	エンドポイント	試験期間(時間)	種	値	出典
Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し
	エンドポイント	試験期間(時間)	種	値	出典
	EC50	48h	甲殻類	>0.002mg/l	2
	EC50	96h	藻類または他の水生植物	64mg/l	2
Acetone	EC50(ECx)	48h	甲殻類	>0.002mg/l	2
	エンドポイント	試験期間(時間)	種	値	出典
	LC50	96h	魚類	3744.6–5000.7mg/L	4
	NOEC(ECx)	12h	魚類	0.001mg/L	4
	EC50	72h	藻類または他の水生植物	5600–10000mg/l	4
(R)-p-mentha-1,8-diene.	EC50	48h	甲殻類	6098.4mg/L	5
	EC50	96h	藻類または他の水生植物	9.873–27.684mg/l	4
	エンドポイント	試験期間(時間)	種	値	出典
	EC50	72h	藻類または他の水生植物	0.214mg/l	2
	EC50	48h	甲殻類	0.307mg/l	2
凡例:	LC50	96h	魚類	0.46mg/l	2
	NOEC(ECx)	0h	藻類または他の水生植物	<0.05–1.5mg/l	4
	1. IUCLID毒性データ 2. 欧州ECHA登録物質 - 生態毒性情報 - 水生毒性 4. 米国環境保護庁, Ecotoxデータベース - 水生毒性データ 5. ECETOC水生環境有害性評価データ 6. NITE (日本) - 生物濃縮性データ 7. METI (日本) - 生物濃縮性データ 8. ベンダーデータ から抽出				

水性生物に対して非常に有毒であり、水生環境中で長期にわたり悪影響を及ぼすことがある。

表層水や平均高水位線以下の潮間帯域への流入を阻止すること。設備の洗浄もしくは設備の洗浄水の処理に際して、水域を汚染しないこと。

製品の使用により生じた廃棄物は、現場もしくは許可を受けた廃棄物処理場において処理すること。

下水道または水路に排出しないこと。

残留性・分解性

成分	残留性: 水域/土壤	残留性: 大気
Acetone	低 (半減期 = 14 日)	ミディアム (半減期 = 116.25 日)
(R)-p-mentha-1,8-diene.	高	高

生体蓄積性

成分	生物濃縮性
Acetone	低 (BCF = 0.69)
(R)-p-mentha-1,8-diene.	高 (LogKOW = 4.8275)

土壤中の移動性

成分	移動性
Acetone	高 (KOC = 1.981)
(R)-p-mentha-1,8-diene.	低 (KOC = 1324)

内分泌かく乱作用

内分泌かく乱作用を示す証拠は、最新の文献では見つかっていない。

その他の有害影響

オゾン層破壊作用を示す証拠は、最新の文献では見つかっていない。

セクション13 廃棄上の注意

廃棄方法

製品／容器／包装の廃棄方法	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 廃棄する場合は廃棄物の処理を管理している都道府県・市町村に問い合わせること。 ▶ 破損したエアゾール缶の内容物は、認可を受けた場所で放出すること。 ▶ 少量の場合には、蒸発させること。 ▶ エアゾール缶を焼却処分したり、穴を開けたりしないこと。 ▶ 残留物および空になったエアゾール缶は、認可を受けた埋立処分場に廃棄すること。
---------------	--

セクション14 輸送上の注意

要求されるラベル

海洋汚染物質	

陸上輸送 (UN)

14.1. 国連番号	1950	
14.2. 国連輸送名	エアゾール; エアゾール; エアゾール; エアゾール; エアゾール; エアゾール; エアゾール; エアゾール; エアゾール	
14.3. 輸送時の危険性クラス	クラス 副次危険性	2.1 該当しない
14.4. 容器等級	該当しない	
14.5. 環境有害性	環境に有害	
14.6. 使用者のための特別予防措置	特別規定 制限容量	63; 190; 277; 327; 344; 381 1000ml

航空輸送 (ICAO-IATA / DGR)

14.1. 国連番号	1950	
14.2. 国連輸送名	エアゾール(引火性のもの); エアゾール(酸化性を含むもの); エアゾール(引火性かつ腐食性のもの)(腐食性物質(等級3のもの)を含むもの); エアゾール(引火性のもの)(毒物(等級2のもの)を含むもの); エアゾール(引火性かつ毒物のもの)(毒物(等級3のもの)を含むもの); エアゾール(引火性のもの)(毒物(等級3のもの)を含むもの)(腐食性物質(等級3のもの)を含むもの); エアゾール(引火性のもの)(毒性ガスを含むもの); エアゾール(非引火性のもの)(加熱試験により劣化する応用生物学的製品又は医療用調剤を含むもの); エアゾール(非引火性のもの)(催涙ガス装置のもの); エアゾール(非引火性のもの)(腐食性物質(等級2のもの)を含むもの); エアゾール(非引火性かつ腐食性のもの)(腐食性物質(等級3のもの)を含むもの); エアゾール(非引火性のもの)(毒物(等級2のもの)(催涙ガス装置を除く。)を含むもの); エアゾール(非引火性かつ毒物のもの)(毒物(等級3のもの)を含むもの); エアゾール(非引火性のもの)(毒物(等級3のもの)及び腐食性物質(等級3のもの)を含むもの); エアゾール(非引火性のもの)(毒性ガスを含むもの); エアゾール(引火性のもの)(腐食性物質(等級2のもの)を含むもの)	
14.3. 輸送時の危険性クラス	ICAO/IATAクラス ICAO / IATA 副次危険性 ERGコード	2.1 該当しない 10L
14.4. 容器等級	該当しない	
14.5. 環境有害性	環境に有害	
14.6. 使用者のための特別予防措置	特別規定 梱包指示(貨物のみ) 最大数量/パック(貨物のみ) 旅客および貨物包装方法 旅客と貨物の最大個数/パック 旅客・貨物輸送機 制限容量 包装方法 旅客・貨物輸送機 最大制限容量 / 包装方法	A145 A167 A802 203 150 kg 203 75 kg Y203 30 kg G

海上輸送 (IMDG-Code / GGVSee)

14.1. 国連番号	1950	
14.2. 国連輸送名	エアゾール; エアゾール; エアゾール; エアゾール; エアゾール; エアゾール; エアゾール; エアゾール	
14.3. 輸送時の危険性クラス	IMDGクラス IMDG 副次危険性	2.1 該当しない
14.4. 容器等級	該当しない	
14.5. 環境有害性	海洋汚染物質	
14.6. 使用者のための特別予防措置	EMS番号 特別規定 制限容量	F-D, S-U 63 190 277 327 344 381 959 1000 ml

14.7.1. MARPOL 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送

該当しない

14.7.2. MARPOL 附属書 V 及び IMSBC コードによるばら積み輸送

製品名	グループ
石油留分	データ無し
Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy	データ無し
Acetone	データ無し
(R)-p-mentha-1,8-diene.	データ無し

14.7.3. IGC コードによるばら積み輸送

製品名	輸送タイプ
石油留分	データ無し
Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy	データ無し
Acetone	データ無し
(R)-p-mentha-1,8-diene.	データ無し

セクション15 適用法令

物質又は混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

石油留分 に関する適用法令

ケミカル フットプリント プロジェクト - 高懸念化学物質リスト

日本 労働安全衛生法

日本 労働安全衛生法 - 危険物

日本 化審法:既存化学物質/新規公示化学物質

日本 政府によるGHS分類

消防法 - 消防活動阻防物質

Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy に関する適用法令

Japan Occupational Exposure Limits – Carcinogens

ケミカル フットプリント プロジェクト - 高懸念化学物質リスト

国際がん研究機関(IARC) - IARCモノグラフにより分類された化学物質

国際がん研究機関(IARC) - IARCモノグラフにより分類された化学物質 - グループ 1:ヒトに対する発がん性がある

国際がん研究機関(IARC) - IARCモノグラフにより分類された化学物質 - ヒトに対する発がん性について分類できない

日本 労働安全衛生法

日本 労働安全衛生法 - 危険物

日本 化審法:既存化学物質/新規公示化学物質

日本 許容濃度等

日本安衛法:名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

Acetone に関する適用法令

労働安全衛生法(ISHA) - 有機溶剤中毒予防規則

日本 作業環境評価基準

日本 労働安全衛生法

日本 労働安全衛生法 - 危険物

日本 化審法:(取消)優先評価化学物質

日本 化審法:既存化学物質/新規公示化学物質

日本 政府によるGHS分類

日本 許容濃度等

日本安衛法:名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

(R)-p-mentha-1,8-diene. に関する適用法令

国際がん研究機関(IARC) - IARCモノグラフにより分類された化学物質 - ヒトに対する発がん性について分類できない

日本 労働安全衛生法

日本 労働安全衛生法 - 危険物

日本 化審法:(取消)優先評価化学物質

日本 化審法:既存化学物質/新規公示化学物質

日本 政府によるGHS分類

労働安全衛生法

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 文書の交付

政令名称	政令番号
鉱油	別表第9の168
ミネラルスピリット(ミネラルシンナー、ペトロリウムスピリット、ホワイトスピリット及びミネラルターベンを含む。)	別表第9の551
アセトン	別表第9の17

名称等を表示すべき危険物及び有害物

政令名称	政令番号
鉱油	別表第9の168
ミネラルスピリット(ミネラルシンナー、ペトロリウムスピリット、ホワイトスピリット及びミネラルターベンを含む。)	別表第9の551
アセトン	別表第9の17

製造の許可を受けるべき有害物

政令名称	政令番号
該当しない	該当しない
関連する法令・条例	
危険物 - 酸化性の物	該当しない
危険物 - 引火性の物	規制
有機溶剤	該当しない
特定化学物質	該当しない

PRTR - 化管法	化管法(令和5年度分以降の排出量等の把握や令和5年度以降のSDS提供の対象)		
分類	政令名称	管理番号	
該当しない	該当しない	該当しない	
毒物及び劇物取締法	該当しない		
化審法	優先評価化学物質	該当しない	
	第1種特定化学物質	該当しない	
	第2種特定化学物質	該当しない	
	監視化学物質	該当しない	
	一般化学物質	原油、石油留分又は残油の水素化精製、改質又は分解により得られるガス、硫化鉛油、酸化鉛油、アルキル(C=1~16)メチルケトン、dl-リモネン、リモネン、ジベンテン、ピネン	

国別インベントリ状況

国別インベントリ	状況
オーストラリア - AIIC / オーストラリア非工業用	Yes
カナダ - DSL	Yes
カナダ - NDSL	No (石油留分: Naphtha (petroleum), hydrotreated heavy; Acetone; (R)-p-mentha-1,8-diene.)
中国 - IECSC	Yes
欧州 - EINEC / ELINCS / NLP	Yes
日本 - ENCS	Yes
韓国 - KECI	Yes
ニュージーランド - NZIoC	Yes
フィリピン - PICCS	Yes
米国 - TSCA	Yes
台湾 - TCSI	Yes
メキシコ - INSQ	Yes
ベトナム - NCI	Yes
ロシア - FBEPH	Yes
凡例:	Yes = 全ての成分がインベントリに収載されている No = 記載されている成分はインベントリに収載されていない。これらの成分は対象外であるか、登録・届出が必要である

セクション16 その他の情報

改訂日	06/10/2023
最初の発行日	06/10/2023

SDSバージョンの概要

バージョン	改訂日	更新されたセクション
1.2	06/10/2023	有害性情報 - 急性有害性(眼), 有害性情報 - 急性有害性(吸入), 有害性情報 - 急性有害性(皮膚), 有害性情報 - 急性有害性(飲み込んだ場合), 応急措置 - 医師に対する特別な注意事項, 有害性情報 - 慢性有害性, 危険有害性の要約 - 分類, 廃棄上の注意 - 廃棄, ばく露防止及び保護措置 - 工学的管理, 環境影響情報 - 環境, 火災時の措置 - 消火方法(消火剤), 火災時の措置 - 消火方法(火災/爆発の危険), 火災時の措置 - 消火方法(消防), 応急措置 - 応急措置(眼), 応急措置 - 応急措置(吸入), 応急措置 - 応急措置(皮膚), 応急措置 - 急救(呑), 取扱い及び保管上の注意 - 取り扱い, 安定性及び反応性 - 安定性及び反応性, ばく露防止及び保護措置 - 個人用保護具(その他), ばく露防止及び保護措置 - 個人用保護具(呼吸器), ばく露防止及び保護措置 - 個人用保護具(眼), ばく露防止及び保護措置 - 個人用保護具(手/足), 漏出時の措置 - 漏出(大規模), 漏出時の措置 - 漏出(小規模), 取扱い及び保管上の注意 - 保管(混触危険性), 取扱い及び保管上の注意 - 保管(条件), 取扱い及び保管上の注意 - 保管(適切な容器), 輸送上の注意 - 輸送, 輸送に関する情報

他の情報

準備およびその個々の成分の分類は、公式および権威ある情報源、および利用可能な文献参照を用いたChemwatch Classification委員会による独立した審査に基づいています。 SDS(安全データシート)は危険性の伝達ツールであり、リスク評価の支援に使用されるべきです。報告された危険性が職場または他の環境でのリスクであるかどうかは多くの要因によって決まります。リスクは露出シナリオを参照して決定されることがあります。使用スケール、使用頻度、および現行または利用可能な技術的制御が考慮される必要があります。

定義および略語

- ▶ PC-TWA: 時間加重平均許容濃度
- ▶ PC-STEL: 短時間ばく露限界許容濃度
- ▶ IARC: 国際がん研究機関
- ▶ ACGIH: 米国産業衛生専門家会議
- ▶ STEL: 短時間ばく露限界濃度
- ▶ IDLH: 脱出限界濃度
- ▶ ES: ばく露基準
- ▶ OSF: 臭気安全係数
- ▶ NOAEL: 無毒性量
- ▶ LOAEL: 最小毒性量
- ▶ TLV: 許容濃度
- ▶ LOD: 検出限界値
- ▶ OTV: 臭気検知閾値
- ▶ BCF: 生物濃縮係数

- ▶ BEI: 生物学的ばく露指標
- ▶ AIIIC: オーストラリア工業化学品インベントリ
- ▶ DSL: 国内物質リスト
- ▶ NDSL: 非国内物質リスト
- ▶ IECSC: 中国現有化学物質名録
- ▶ EINECS: 欧州既存商業化学物質インベントリ
- ▶ ELINCS: 欧州届出化学物質リスト
- ▶ NLP: もはやポリマーとみなされない物質のリスト
- ▶ ENCS: E既存化学物質 / 新規公示化学物質
- ▶ KECL: 韓国既存化学物質目録
- ▶ NZIoC: ニュージーランド化学物質インベントリ
- ▶ PICCS: フィリピン化学品および化学物質インベントリ
- ▶ TSCA: 有害物質規制法
- ▶ TOSI: 台湾既存化学物質インベントリ
- ▶ INSQ: 国家化学物質インベントリー
- ▶ NCI: 国家化学品インベントリ
- ▶ FBEPH: ロシア 潜在的に有害性のある化学物質及び生物学的物質リスト

ChemwatchのAuthorITeで作成しました。